

宇都宮大学

フランス式庭園

登録記念物(名勝地)



フランス式庭園は、農学部の前身である宇都宮高等農林学校の開校（1923（大正12）年）に際し、教職員により造園設計が行われました。その後、学生や地域の青年団の方々のご協力をいただき、3年後の1926（大正15）年の秋に完成した歴史ある庭園です。左右対称の幾何学模様を描くようにつくられ、庭園が今のデザインとなったのは1941（昭和16）年頃から。作庭当時の歴史をうかがい知ることができ、日本庭園史における西洋式庭園の作庭例としても貴重なものです。

2003（平成15）年には宇都宮市の「うつのみや百景」に選定され、2017（平成29）年には「登録記念物(名勝地)」に登録されました。また、縦横に走る大谷石の園路は、2018（平成30）年に宇都宮市が認定を受けた日本遺産のストーリーの一端を担っています。学生がベンチでお弁当を広げたり、近隣の方々が散策したりと、宇大関係者だけでなく多くの方から憩いの場として親しまれています。